

委員会は：

1. 日本が「山・鉦・屋台行事」(No. 01059)を人類の無形文化遺産の代表的な一覧表への記載に向けて提案したことを確認する。：

日本の市や町では、平和や災厄防除を願うため、コミュニティにより山・鉦・屋台行事が毎年行われている。「山・鉦・屋台行事」は、日本の各地域の文化的多様性を示す33件の代表例を含む。この33の行事は、コミュニティの様々な人々の協力を得て、伝統行事として参加者の文化的アイデンティティの重要な一部となる。市や、地域の他の場所出身の老若男女が組織の責任や行事の運営を分担している。地域文化の多様性を示す山・鉦・屋台の設計、製作をはじめ、行事で演奏される囃子(はやし)や行事全体の調整など、すべての段階が共有されている。例えば、高岡御車山祭の御車山行事では、市の中心の住民が山を組み立て、その周辺の地域に住む人々が山を曳(ひ)き、囃子(はやし)を担当する。責任は年齢に応じて変わり、年配の世代が経験の少ない世代や若者に向けて指導を行う。例えば、上野天神祭のダンジリ行事では、参加者はまず囃子(はやし)を演奏する囃子方(はやしかた)と呼ばれる役割から習いはじめ、ダンジリの方向を変える梶子方(てこがた)、ダンジリを守る警固役(けいごやく)、そして最後に行事の運営を取りまとめる采配役(さいはいやく)へと段階的に進んでゆく。

2. 提案書に含まれている情報をもとに、以下の基準を満たしていると決定する：

R.1: 山・鉦・屋台行事は、コミュニティのすべての人たちが集まって平和や災厄防除を願う文化・社会的慣習、儀式及び祭礼行事である。山・鉦・屋台行事は伝承者や実践者(行事が行われている33の市や町のすべての住民)にアイデンティティ、持続性や芸術的創造性を与えるものである。伝承は33の市・町内の家族や保護団体を通して保証されている。コミュニティの人々は青年期から参加し、徐々に必要な技術を習得していく。行事の環境的持続性を計画する取組はベストプラクティスの例になり得る。提案書は関係するコミュニティが山・鉦・屋台を作るために必要な木々をどう持続的に確保し、伐採した後に景観をどう回復するかを説明している。例えば、日田市では次の100年間に山・鉦・屋台の車輪として使用するため、2008年に、市、保護団体、森林組合や住民が1,000本のアカマツの苗木を植えた。また、提案書は、山・鉦・屋台行事が2011年3月の東日本大震災の影響からのコミュニティ回復に貢献した例も挙げている。

